

アンケート「コロナ禍を乗り越え市民活動をすすめるために」のまとめ

【目次】

- 1 概要
- 2 アンケートの対象
- 3 アンケートの結果概要
 - (1) コロナ禍の中での事業の取組状況
 - (2) コロナ禍の中での市民活動を進めていく課題
 - (3) IT ツールの活用
- 4 各団体の回答
 - (1) コロナ禍における事業の実施状況
 - (2) コロナ禍における会の運営の工夫
 - (3) 事業のオンライン化
 - (4) アイデア・意見・要望

1 概要

港北区でコロナ禍を乗り越え市民活動をすすめることを目的に、事業の実施（取りやめ）状況、会の運営の工夫、オンライン化に対する意見等について、令和2年度地域のチカラ応援事業に申請いただいた30団体のうち25団体の回答をまとめたものです。

コロナ禍における市民活動団体の取組の工夫などを区内で活動する組織・団体等で共有し、不安や工夫を知ることで支援の方策や連携のきっかけづくりになることを期待し、発信します。

2 アンケートの対象

令和2年度「港北区地域のチカラ応援事業」に申請した団体

3 アンケートの結果概要

(1) コロナ禍の中での事業の取組状況

「地域のチカラ応援事業」に申請した25事業のうち新型コロナウイルスの影響で7事業が中止となっています。

また、実施(予定)の18事業もオンライン化、少人数による実施、期間の短縮など「三密」を避ける工夫をした取組となっています。

コース	回答数	実施	変更・縮小して実施	取りやめ
チャレンジ	13	2	5	6
スタートアップ	4	2(検討中)	1	1
地域元気づくり	4	1(検討中)	3	—
パートナーシップ	4	2(検討中)	2	—
合計	25	7	11	7

○ 取組変更の判断材料として考慮した点 (複数回答)

回答項目	回答数
ア 感染拡大防止策がとることができない	10
イ 会場が確保できない	5
ウ 会員・メンバーの意見	10
エ 事業への参加者が見込めない	4
オ 地域・社会に応援いただけない雰囲気	3
カ その他 ・感染防止の観点から短縮へと話し合いがされた。 ・参加者の公共交通機関利用のリスク。 ・新型コロナウイルスの収束がみられない。	

※参考 ・地区センターは、3/3～5/末まで休館

・市立小中学校は、3/3～5月末まで休校。夏休みは小学校2週間、中学校1週間となった。

(2) コロナ禍の中で市民活動を進めていく課題

コロナ禍の中で市民活動をすすめていく課題として①感染予防対策、②会員メンバーの意思疎通不足・モチベーション低下、③事業の目的達成の工夫、④団体機関との連携や行政の支援の必要性などがあげられており、それぞれの項目でまとめました。

ア 感染予防対策

回答項目	回答数
○団体内で感染予防対策について話し合った。	19
○使用会場の利用ガイドラインに従った。	17
○団体内で活動をする上でのガイドラインをつくった。	7
○参加者向けにガイドラインを提示した。 [提示項目のまとめ] ・定員設定・事前申し込み ・当日各自で事前検温 ・マスク着用 ・入口での手指消毒 ・会場消毒 ・定期的に換気 ・間隔をあけた席の配置 ・緊急連絡先名簿の作成	6
○その他 ・屋内のみでなく野外でのイベントを取り入れた ・定員制、分散来園にしてもらった ・オンラインで両親教室を行い緊急事態宣言下では好評。 ・危険を冒してまで実施すべきではない。	

○感染予防のために用意した物品 (回答数)

・除菌、消毒用薬品(12) ・マスク(7) ・フェイスシールド(7) ・非接触型体温計(4) ・パーティション、アクリル板(2) ・野外テント ・2m 間隔お手製メジャー ・注意書きポスター
--

イ 会員・メンバーの意思疎通不足・モチベーション低下

○会の運営で工夫した点

回答を [会の状況]、[会議の工夫]、[IT ツールの活用]、[その他]のキーワードで分類しました。

[会の状況]

- ・モチベーションの低下はない。
- ・感染を恐れるあまり、集まって何かの課題をすすめる機運に乏しい。
- ・三密回避を意識しながら、メンバーの参加意思を優先して自由参加として日程を設け活動を再開している。集まることで、メンバーの意欲やコミュニケーションの場を設けることができ、創作活動意欲を維持している。
- ・細々とでも継続することが大事であると考え、事業実施に際してオンライン化を行った。また、三密を回避できる企画や開催形態の模索を行った。

[会議の工夫]

- ・少人数でも、回数多く集まることをスケジュールすることで、密を避け交流を進めることはできている。
- ・実行委員会の回数を少なく出来るように、レジメをまとめ、問題の解決を早くした。
- ・部会に分けて実施した。
- ・再開にあたっては会議会場の感染予防対策を確認・共有し、7月より再開をした。

[IT ツールの活用]

- ・定期的なオンライン会議、打ち合わせ、ライン等を積極的に活用し意思疎通につとめた
- ・メール、LINE 等で話し合いあるいは、連絡意見交換等をより頻繁に行うようになった。
- ・オンラインの活用。メンバー全員が複業チームだからこそ却って時間の確保が容易となる場合があった。
- ・活動休止中も活動場所の様子をメーリングリストやブログで配信。
- ・ZOOM でのスタッフ間オンライン会議実施
- ・定例会休止期間中は、連絡ツールとして利用しているメーリングリストで情報共有をした。
- ・メンバーとのコミュニケーションについては、Eメールや ZOOM を使用したオンライン会議にて行った。

[その他]

- ・映像による資料作成に取り組んだ。
- ・安全が確信できるまで取りやめる方針にしたので、休みが長期になっている。この間手紙を1回、電話を2回して、コロナ感染予防をお願いし、再開を楽しみにしていただきたい旨お話しした。さらに年内再開希望である旨、近々連絡を取りたいと思う。
- ・全メンバーにフェイスシールドを配布、体温測定、マスク着用での参加を理解して頂いた。

ウ 事業の目的達成の工夫

回答を [広報]、[事業]、[連携]、[助成金] のキーワードで分類しました。

[広報]

- ・ SNS を活用した広報を進め、変更や訂正に対応できるようにした。
- ・ 行政ガイドラインに沿った上で、もう一段階独自での「感染対策」をちらし、プログラム等でアピールした。
- ・ 対象が「妊娠中の女性」「出産後の母親」であるため、広報に苦勞する中、関わりのある団体へ告知依頼をしたり、ピアッツァ、ココアプリを活用したり、Instagram、Facebook を活用したりして、対象となる人への広報をした。(しかし難しい状況)
- ・ SNS の活用。緊急事態宣言の解除後は次第にリーチが落ち、集客については改善が必要。
- ・ 会員が増えると密になるため、新たな会員募集を休止し、ブログの発信頻度を少なくした。
- ・ 『えがお』で実施告知および、同えがお関連 SNS での中止告知
- ・ これまでの参加者に対して定期的にメールを送り現状や今後の予定の報告などのコミュニケーションを継続的に行った。
- ・ イベント等の中止のお知らせを、随時ホームページに掲載
- ・ メール配信登録者に、開催見合わせをメールで報告。
- ・ メール配信登録者に運営状況を報告。
- ・ 会報誌を作成して、他団体から寄付された手作りマスクや畑のハーブを添えて会員に発送。
- ・ 講座の開講が 10 月からになったが、講座への期待を持って頂くこと、感染症予防対策の実験の為に 9 月にトライアル講座(参加費無料)を、参加希望者の半数で行ってみた。
これが口コミで他の参加者にも伝わり、10 月の開講が楽しみとの嬉しい反響があった。

[事業]

- ・ 密を避けるため学習机を個別用にかえ、机間を 1.5 メートル離した。
- ・ 対面授業に参加できない利用者にオンライン授業を始めた。
- ・ すべてオンライン開催とした。
- ・ 野外での開催ができるよう企画を変更した。
- ・ 「密」を避けるため、実施期間を短期間に設定した。
- ・ 声を発する講座のため制約があったが、「日吉地区センター」のご支援で会場確保ができた。
- ・ 開催にあたっての参加者の意識調査アンケートの実施。
- ・ 精神的に体調が悪化した会員さんを個別に呼んで少人数にて活動。

[連携]

- ・ 行政（横浜市、港北区）との連絡を密にするために、状況の報告を行った。
- ・ 他団体との共催による少人数でのイベントの実施
- ・ 年間予定では、下期に企画を予定しているため、地域の恒例行事や各団体の現状を毎月確認している。
- ・ 公演実施先の要請・協力があれば、行政（横浜市）が掲示している感染症対策ガイドラインをもとに感染対策を徹底して講じ、一部の事業を変更・縮小し実施しています。

[助成金]

- ・ 行政の支援として市民公益活動緊急支援金を受給できオンライン授業の環境整備ができた。
- ・ 緊急支援金など、助成金を取ることで、活動を動かしやすくした。

(3) IT ツールの活用

「三密」を避け活動をすすめるための IT ツールの活用についての回答をまとめました。

ア 会員・メンバー間の活用

回答項目	回答数	回答項目	回答数
活用している	18	・在宅で打ち合わせに活用	9
		・データ共有に活用	12
		・連絡手段に活用	17
今後、活用したい	2	[どんなふうに活用したいか](回答数) ・在宅で打ち合わせをしたい(2)	
活用はしない	6	[その理由] (回答数) ・打ち合わせは対面でしたいから(4) ・メンバーにスキルがないから(3) ・活動を予定していないから(2)	

イ 事業実施の活用

回答項目	回答数	回答項目
活用している	8	[ツール名](回答数) ・ZOOM(6) ・Youtube (2) ・ホームページ(1)
今後、活用したい	3	[どんなふうに活用したいか] ・動画の配信(3) ・検討中
活用はしない	10	[その理由] ・事業がオンラインにふさわしくない(8) ・メンバーに活用スキルがない(1) ・対面でこそその事業だから(1)

ウ 事業のオンライン化について

回答を [オンラインのメリット]、[対面 (リアル) が大切]、[オンラインと対面 (リアル) のミックス]、[オンラインの課題] のキーワードで分類しました。

[オンラインのメリット]

- ・オンラインでは、密や対人に不安を抱えている利用者が参加しやすい。
- ・リアルには人数制限があるので、オンラインがあることで活動を広げることができる。
- ・広報活動はオンラインの利用可能。

[対面 (リアル) が大切]

- ・対面授業においては授業に関係ない雑談、身体の動きなどコミュニケーションが取りやすいなど利点がある。
- ・リアルでこそこの行事であると理解しています。可能性として、展示作品を映像にて流す、音楽配信をする等、出来る事はあると思いますが、「大倉山記念館」という建物のリアルさや響きなどが、感じられての「秋の芸術祭」です。
- ・LIVE の臨場感、会場に居る当事者感など、リアルが野外コンサートの本質

- ・子どもたちを対象とした活動であるため、オンラインでの活動は不向きなので実施はしない。
- ・IT ツールに慣れているメンバーは、誰かと同席して参加する必要があること、自治会・町内会 はみな近くに住んでいること、ふれあいも重要なので、基本は対面でしょうか。

[オンラインと対面（リアル）のミックス]

- ・コロナ禍でなくても外出しにくい「妊娠中の女性」、「出産後の母親」を対象としている事業は、オンラインでの開催は有効であることに気づいた。従って、この状況が回復されてもオンライン開催は続けていきたいと考えている。

しかし、オンラインだとコミュニケーションに限界があり、参加者同士の交流が難しく、近所に住んでいても友達になるまでにはならないので、リアルな場も必要だと考えている。

- ・オンラインは気軽に有効な手段と思っています。オンラインでつながり、対面し（個別）という導線もできました。
- ・スキルを学ぶという点ではオンラインでの実施に問題ない。一方、地域社会における住民同士の交流という観点では、リアル（対面）な展開が必須であることが改めて認識できた。
- ・高齢者対象として対面で、若者向けには Youtube 等で行う。
- ・基本、実際に体験することが大事ですが、今後オンライン上でのイベント（ふれ合い）などを検討中。
- ・今年は、イベントも中止となり、去年の演奏をオンラインで配信したが、やはり対面のイベントにはかなわないと思う。

コロナが収束したら、是非とも対面でのイベントを復活させたい。

- ・舞台芸術公演（対面）、情報発信・映像作品（オンライン）
- ・事業内容上、リアル（対面）が望ましい。広報活動はオンラインを利用。

[オンラインの課題]

- ・全員がオンラインの場合の方がやりやすいが、今後、対面とオンラインとの同時開催の必要が出てくるだろうし、その場合、音声や画像のノウハウがないと対応できないと考えている。外部から専門家派遣してもらえよう、企画中。
- ・各団体のスキルの違いも大きな問題になると思われます。IT スキルのある者だけのイベントであってはいけないとも思っています。
- ・シニア対象の講座の為、オンラインに抵抗感が強い参加者が多い。
- ・対面での温かさが何より大切だと考えている。
少人数のリアルの集いを想定した対話を積み重ねて、話題や課題を共有できるようにして、得られた課題について講演を録画配信することを考えている。
- ・オンライン事業の実施例（活用するための設備費や準備も含めて）を知ったうえで、団体内での共有・実施を検討できればと思います。

4 各団体の回答

(1) コロナ禍における事業の実施状況

番号	区分	団体名	取組概要	コロナ禍での取組状況	感染予防対策	用意した物品	実施の工夫(会の運営含む)
1	チャレンジ	特定非営利活動法人バンブーマナビ塾	不登校、ひきこもりの児童、青少年、家族に対し学習支援・相談・居場所等の支援を通じ自立をめざす。	変更・縮小して実施 (理由) ・事業への参加者が見込めない	・団体内で感染予防対策について話し合った。 ・参加者向けにガイドラインを提示した。	非接触用体温計 フェイスシールド 透明マスク 手洗い、うがい、消毒用薬品	・密を避けるため学習机を個別用にかえ、机間を1.5メートル離れた。 ・対面授業に参加できない利用者にオンライン授業を始めた。 ・行政の支援として市民公益活動緊急支援金を受給できオンライン授業の環境整備ができた。
2	チャレンジ	NPO法人フォーラム・アソシエ	【子育てLABO】子育て支援者のためのセミナーを開催。全5回。	実施(予定)	・団体内で感染予防対策について話し合った。 ・使用会場の利用ガイドラインに従った。 ・団体内で活動するうえでのガイドラインを作った。	除菌アルコールなど	・すべてオンライン開催とした。 ZOOM開催の特性に合わせて、講座の時間を3時間→2時間と短くし(集中力が続きにくい)、慣れてない参加者への事前のフォローの工夫、当日の役割分担など、アソシエの別のプロジェクトチーム(食ラボ)とも連携し、きめ細やかに準備中。
3	チャレンジ	NPO法人街カフェ大倉山ミエル	・こどものまちを作ろう ・こども哲学	変更・縮小して実施 (理由) ・感染拡大防止策がとることができない ・会員・メンバーの意見	・団体内で感染予防対策について話し合った。 ・使用会場の利用ガイドラインに従った	・非接触型体温計 ・消毒剤	・SNSを活用した広報を進め、変更や訂正に対応できるようにした。 ・野外での開催ができるよう企画を変更した。 ・緊急支援金など、助成金を取ることで、活動を動かしやすくなった。
4	チャレンジ	第36回大倉山秋の芸術祭	例年通り、11月初旬に5日間～7日間の期間を設け、演説と展示の発表を行う予定であった。	変更・縮小して実施 (理由) ・感染拡大防止策がとることができない ・会員・メンバーの意見 ・地域・社会に応援いただけない雰囲気 ・例年通りでは、感染防止策が難しいかもしれないので、短縮へと話し合いがされた	・団体内で感染予防対策について話し合った。 ・使用会場の利用ガイドラインに従った ・団体内で活動をするうえでのガイドラインをつくった ・参加者向けにガイドラインを提示した。 ・館内のみでなく野外でのイベントを取り入れた	野外テント 舞台用シールド アクリル板 注意書きポスター 消毒液 マスク等	・「密」を避けるため、実施期間を短期間に設定した。 ・行政(横浜市、港北区)との連絡を密にするために、記念館さんを通して状況の報告を行った。 ・行政ガイドラインに沿った上で、もう一段階独自での「感染対策」をちらし、プログラム等でアピールした。
5	チャレンジ	アイネット(I♥Net)	◎ブレママ&ピギママサロンを開催 *月1回第3火曜日 ・場所:トレッサ横浜 フードコートの一隅 ・手作り(基本メニュー:手縫いで育児グッズ作り)をしながら、妊娠中の女性と出産直後の母親が気軽に交流できる場を作る。また、毎月参加希望する人に多様なメニューを提供できるようにする。 ・地域の情報を提供する。特に子連れで行ける場所、子連れでもできることを詳しく紹介する。	変更・縮小して実施 (理由) ・感染拡大防止策をとることができない ・会場が確保できない ・会員・メンバーの意見 ・事業への参加者が見込めない ・地域・社会に応援いただけない雰囲気	・団体内で感染予防対策について話し合った。 ・使用会場の利用ガイドラインに従った	アクリル板 ビニールシート	・対象が「妊娠中の女性」「出産後の母親」で、限られた人であるため、広報に苦勞する中、関わりのある団体へ告知依頼をしたり、ピアッザ、ココアブを活用したり、Instagram、Facebookを活用したりして、対象となる人への広報をした。 (しかし難しい状況)
6	チャレンジ	産前産後ハンドレッドスマイル	マッチングサイト・プラットフォーム構築	実施(予定)	・その他(ITを活用しているため計画に変更はなし。逆にコロナ禍においてオンライン両親教室を行い、緊急事態宣言下は好評を得た)	特になし	・SNSの活用。ただし緊急事態宣言の終息後は次第にリーチが落ち、集客については改善が必要。
7	チャレンジ	小机城のあるまちを愛する会	地域の歴史や文化遺産を調査し、歴史散歩を行う	取りやめ (理由) ・感染拡大防止策がとることができない ・事業への参加者が見込めない	・団体内で感染予防対策について話し合った。 ・使用会場の利用ガイドラインに従った。	消毒薬 マスク	・会員のみによる学習会 ・他団体との共催による小人数での視聴会(小机城の重政)
8	チャレンジ	虹色畑クラブ	不登校や引きこもり、発達障害や精神疾患などで生きづらさを抱いている人達やその親御さんと地域のの人たちとが共同で港北区高田町の藤田農園にて、毎週木曜と月1回の日曜日、草取りや種まき、野菜の世話など、簡単にできる援農を行う。参加者には、収穫野菜がある時はその野菜を、お土産として持ち帰ってもらう。	変更・縮小して実施 補助金事業は取りやめ (理由) ・地域・社会に応援いただけない雰囲気 ・畑に車での交通機関利用のリスク	・団体内で感染予防対策について話し合った。 ・使用会場の利用ガイドラインに従った。 ・参加者向けにガイドラインを提示した。 ・その他(定員制、分散来園にしていた)		・これ以上会員が増えると密になるため、新たな会員募集を休止し、ブログの発信頻度を少なくした。
9	チャレンジ	おからさん(NPO法人フラットハート)	町内会清掃とみどりの街づくり	取りやめ (理由) ・感染拡大防止策がとることができない			
10	チャレンジ	梅の丘公園ミュージックFES実行委員会	師岡町/梅の丘公園での野外コンサートの開催	取りやめ (理由) ・感染拡大防止策がとることができない ・会員・メンバーの意見	・団体内で感染予防対策について話し合った	フェイスシールド 除菌シート業務用 非接触型体温計 アルコール	・当代表の“えがお紙”インタビューでコンサート実施告知および、おえがお関連SNSでの中止告知

11	チャレンジ	港北すみれの会“みんなでミュージカルを歌う会”	月2回のレッスンを続ける中で、会員を倍増(40人位まで)していく。特別チームを編成して、年内には施設へ派遣できるようにする。発表の場も1~2回計画する。	取りやめ (理由) ・感染拡大防止策がとることができない ・会場が確保できない	・団体内で感染予防対策について話し合った ・使用会場の利用ガイドラインに従った		
12	チャレンジ	Athlete Shared Value	日本を代表するアスリートと子供たちがふれ合い、様々なスポーツを体験することで『夢をみつける課外授業』を行うこと	取りやめ (理由) ・会員・メンバーの意見 ・事業への参加者が見込めない	・団体内で感染予防対策について話し合った ・使用会場の利用ガイドラインに従った	マスク アルコールスプレー	・(予定)HP内でコロナウイルスガイドライン作り
13	チャレンジ	地球っ子・綱島	親子で学ぼう!「鶴見川の自然と防災」 ○区内の市民団体と共同により、親子で楽しみながら鶴見川の治水と防災の学習会 ○冊子「鶴見川の自然と防災」	取りやめ (理由) ・会場が確保できない ・新型コロナウイルスの収束がみられないので、実施の見通しがたかない	・危険をおかしてまでも実施するべきでない	なし	・新規イベントなので特に広報もしていない
14	スタートアップ	「シニアのためのクラブ活動」大きな声で読んで歌って脳イキ講座	高齢化社会を迎えた今、60~90代のシニアの皆さんがこれまでの人生経験を地域社会に還元するための活動にあたり、重要な課題となる脳の老化を防止するための講座を開催。 講座に参加することで、いつまでも元気で明るく楽しく「生涯現役」で、各々の能力を家庭や地域に還元できるシニアが増えることを支援する。	変更・縮小して実施	・団体内で感染予防対策について話し合った。 ・使用会場の利用ガイドラインに従った。	フェイスシールド 手指消毒薬	・声を発する講座のため様々な制約があって会場探しに苦労したが、講座の内容が斬新とのことで、地域の「日吉地区センター」のご支援を頂いたことにより期間中の会場確保の心配がなくなった。 ・チラシを区民活動支援センターのメールボックス他に置かせて頂いたこと、情報誌「えがお」に講座の紹介記事を掲載頂いたこと、最も効果的だったのは個人的な繋がり大切に電話・メール・対面(三密回避)での講座内容の説明が受け入れられた事が大きいと思う。 ・音楽と音読の合体で多様な楽しいカリキュラムを組み、最終回には舞台発表を実現させる予定。
15	スタートアップ	食の安全と安心を学ぶ港北の会	子育て世代を中心として、幼児期からの食育の大切さを伝えながら食の安全について、講師を招き、講演や集いを開いて学習する。	現在、検討中 (理由) 子育て世代との接点を持ちにくい状況にあり、事業方針を変更せざるを得ない	・感染防止の問題よりも、課題の取り組みができていない	なし	一般に広報する段階に至っていない。
16	スタートアップ	ちくちくCafé	子育て支援施設などへの布おもちゃなどの制作および提供や、布おもちゃに興味を持っていただくためにイベントへの参加などを通して団体への参加希望者を募る活動や、子育て中の親御さんへの布おもちゃ作成紹介などを行う予定でした。	変更・縮小して実施 補助金事業は取りやめ (理由) 会員・メンバーの意見	・団体内で感染予防対策について話し合った ・使用会場の利用ガイドラインに従った		
17	地域元気づくり	育児も家事も仕事もできる男になる、「男の3Gプロジェクト」	「男の3Gプロジェクト」では、「家事も、育児も、地域社会での活躍も、できる男になる」を合言葉に、健康で安心して住めるまちづくりの担い手を増やすことを目的に、男性の地域社会への参画を促す手段とした企画を実施する。まずは男性が不慣れな家事と育児に関する企画に優先的に取り組むこととして、その中でも人間として必須な「食べる」ことに着目し、「男の料理教室」を主に展開する。調理方法を学ぶことはもちろん、料理を皆で一緒に食べるなど参加者同士の交流を促し、本プロジェクトが目的とする地域社会の担い手を増やすために参加者同士の人間関係の醸成を実現することを意図して実施する。	変更・縮小して実施 (理由) ・感染拡大防止策がとることができない ・会場が確保できない ・10月から会場確保の目的がたつため、回数を減らして実施予定	・団体内で感染予防対策について話し合った ・使用会場の利用ガイドラインに従った ・団体内で活動をする上でのガイドラインをつくった	マスク フェイスシールド アルコール除菌	・これまでの参加者に対して定期的にメールを送り現状や今後の予定の報告などのコミュニケーションを継続的に行った。
18	地域元気づくり	ひっとプラン港北樽町地区推進委員会	・イベント情報のホームページ掲載 ・紙媒体での発行、配布(年2回)	変更・縮小して実施	・使用会場の利用ガイドラインに従った。 ・団体内で活動する上でのガイドラインをつくった		・イベント等の中止のお知らせを、随時ホームページに掲載
19	地域元気づくり	和輪話のまちにっば健康づくり部会	・ウォーキング、大新羽音頭の保存会の設立、野菜づくりを通して子どもたちの収穫体験、心の健康づくり等を企画	変更・縮小して実施 (理由) ・感染拡大防止策をとることができない ・会場が確保できない ・会員・メンバーの意見	・団体内で感染予防対策について話し合った		
20	地域元気づくり	太尾宮前地域まちづくり運営協議会	まちづくり協議会のネットワークを生かし、さらなる地域力のアップに向けて、こどもが主役となる場づくり、イベントを開催する。	現在、検討中	・団体内で感染予防対策について話し合った	除菌液 非接触型体温計	・年間予定では、下期に企画を予定しているため、地域の恒例行事や各団体の現状を毎月確認している。 ・また、地域づくりの最たるは、防災という考えのもと、短時間での防災の取組みについての勉強会を実施中。各現場での防災の取組について共有を図っている。

21	パートナーシップ 港北ふるさとテレビ局	(1)「観光」「自然」「歴史」「伝統芸能」「まちづくり」「港北昔ばなし紙芝居」等のジャンルの映像作品を制作して、「港北映像ライブラリ」に提供する (2)祭り、イベント、コンサートなどの撮影、編集、DVD制作	変更・縮小して実施 (理由) ・撮影対象のイベントが軒並み中止となったので、過去に撮影した映像を使用しての映像制作がメインとなった。 ・「港北昔ばなし紙芝居」の撮影は実施	・使用会場の利用ガイドラインに従った。	マスク アルコールスプレー	港北図書館で毎月開催していた「港北ふるさと映像上映会」は、図書館と協力団体での検討の結果、今年度は残念ながら中止とした。図書館会場での上映会を中止にした代わりとして、「港北映像ライブラリ」の協力で、過去に制作した映像作品を期間限定で公開するなどの工夫をした。広報については、港北図書館の方にご協力いただいた。
22	パートナーシップ スターリンクス	・スターリンクスファミリー劇場公演(7～10月)小学校他各地公共施設での映像劇公演 ・インターシップシアター公演(1月)バレエ・フラダンス公演	変更・縮小して実施 (理由) 会員・メンバーの意見	・団体内で感染予防対策について話し合った。 ・使用会場の利用ガイドラインに従った。 ・団体内で活動をする上でのガイドラインをつくった。 ・参加者向けにガイドラインを提示した。	フェイスシールド マスク 手指消毒液 非接触体温計 2m間隔お手製メジャーなど	・感染対策上、三密回避の為、大々的な広報・集客活動は行っていません。
23	パートナーシップ ま～の・ま～の	親のための家庭教育(子どもの成長発達に合った親の関わり方)を学ぶ会を10か月開催。 毎月テーマを決めてチラシを作成し、掲示・配布。希望者にはメールで案内を配信。 毎回テーマに準じた講義、そして質疑応答、実践報告。	現在、検討中 (理由) ・会員・メンバーの意見	・団体内で感染予防対策の取組について話し合った ・使用会場の利用ガイドラインに従った ・団体内で活動するうえでのガイドラインを作った(完全予約制、子どもの安全の為に子どもの同室不可、当日各自で事前検温、マスク着用、手指消毒、会場の消毒、緊急連絡先名簿の作成) ・参加者向けにガイドラインを提示した(上段のガイドラインと同内容)		メール配信登録者に、開催見合わせをメールで報告。 開催にあたっての意識調査アンケートの実施。 見合わせ期間中の相談受付を案内。
24	パートナーシップ ウエルカム	毎月(除、8月)テーマを決め、子どもの成長発達に合った親のかかり方の勉強会(含、質疑応答・実践報告)を開催。日程・テーマを記載したチラシを作成し、掲示・配布。	現在、検討中 (理由) ・会員・メンバーの意見	・団体内で感染予防について話し合った ・使用会場の利用ガイドラインに従った ・団体内で活動する上でのガイドラインをつくった(完全予約制。子どもの安全を守る為、子ども同室不可。当日各自で事前検温。マスク着用。手指消毒。会場消毒。緊急連絡先名簿の作成。) ・参加者向けにガイドラインを提示した(会場消毒以外、上段のガイドラインと同様)	現在はなし。開催再開の際は、フェイスシールド、簡易バーテンションを検討。	メール配信登録者に開催にあたっての意識調査アンケートの実施。アンケート状況により開催見合わせを報告。見合わせ期間中の相談受付を案内。
25	スタートアップ NPOサンライト	文化の集いスマイルを立ち上げ、観光立国を目指す意味からも文化レベルのアップを図るための活動を実施する。	実施(予定)	・団体内で感染予防対策について話し合った ・使用会場の利用ガイドラインに従った ・団体内で活動をする上でのガイドラインをつくった		

(2) コロナ禍における会の運営の工夫

番号	団体名	会の運営の工夫	ITツール	在宅で打ち合わせに活用	データ共有に活用	連絡手段に活用	今後活用したい	どんなふうを活用し	活用しない	活用しない理由
1	特定非営利活動法人バンブーマナビ塾	定期的なオンライン会議、打ち合わせ、ライン等を積極的に活用し意思疎通につとめた	○	ZOOM	ZOOM	LINE				
2	NPO法人フォーラム・アソシエ	●(助成対象外の事業ですが)フォーラム・アソシエの事業の柱である登録講師による講座事業が、従来の対面型ではほぼ依頼がなくなりました。オンライン講座が開催できるように、①団体内講師相互による練習講座 ②団体外への無料講座 とステップを踏んで、団体外への有料講座ができるような体制にしました。 ●会員のモチベーションをあげるため、11/22に正会員対象のフォーラムを開催予定。	○	ZOOM	Facebook GoogleDrive	Facebook Mail				
3	NPO法人街カフェ大倉山ミエル	・少人数でも、回数多く集まることをスケジュールすることで、密を避け交流を進めることはできている。	○	ZOOM、LINE	LINE、Facebook	LINE、Facebook				
4	第36回大倉山秋の芸術祭	・実行委員会を少なく出来るように、レジメを出来るだけまとめ、問題の解決を早くした。 ・メール、LINE等で話し合いあるいは、連絡意見交換等をより頻繁に行うようになった。	○			メール LINE				
5	アイネット(I ¹⁰⁰ Net)	オンライン開催をするにあたって、会の運営についてオンライン上、メッセージ上で打ち合わせ、情報共有をこまめに行った。	○	ZOOM	ZOOM	googleドライブ ドロップボックス				
6	産前産後ハンドレッドスマイル	オンラインの活用。メンバー全員が複業チームだからこそ却って時間の確保が容易となる場合があった。	○	ZOOM、Teams	googlr drive	LINE、LINE公式アカウント				
7	小机城のあるまちを愛する会	・部会を分けて実施した ・映像による資料作成に取り組んだ。 ・小机城の資料作成を行う。 ・少人数による試写会をおこなう。 ・少人数での商店の映像作成	○		Facebook	LINE				
8	虹色畑クラブ	・会報誌を作成して、他団体から寄付された手作りマスクや畑のハーブを添えて会員に発送。 ・精神的に体調が悪化した会員さんを個別に呼んで少人数にて作業。 ・活動休止中も畑の様子をメーリングリストやブログで配信。	○	LINEビデオ	DropBox	グループLINE				
10	梅の丘公園ミュージックFES実行委員会	ZOOMでのスタッフ間オンライン会議実施	○	ZOOM	LINE	LINE				
11	港北すみれの会“みんなでミュージカルを歌う会”	高齢者・障害者が多数のため、無理をしない、安全が確信できるまで取りやめる方針にしたので、休みが長期になっている。この間手紙を1回、電話を2回して、コロナ感染予防をお願いし、再開を楽しみにしていただきたい旨お話しした。さらに年内再開希望である旨、近々連絡を取りたいと思う。	○							・会員メンバー打ち合わせは対面で実施したいから ・会員メンバーにITツールを活用するスキルがない
12	Athlete Shared Value	(予定)スポーツ体験中以外は基本マスク着用。開催前にアルコール消毒の徹底等	○	ZOOM		LINE				
13	地球っ子・綱島	モチベーションの低下はない							○	・その他(活動を予定していないので、今までどおり、メールですむ)
14	「シニアのためのクラブ活動」大きな声で読んで歌って脳イキイキ講座	・講座の開講が10月からになったが、講座への期待を持って頂くこと、感染症予防対策の実験の為に9月にトライアル講座(参加費無料)を、参加希望者の半数で行ってみた。これがロコミで他の参加者にも伝わり、10月の開講が楽しみとの嬉しい反響があった。 ・全メンバーにフェイスシールドを配布、体温測定、マスク着用での参加を理解して頂いた。	○			スマホメール			○	・会員メンバー打ち合わせは対面で実施したいから ・会員メンバーにITツールを活用するスキルがない
15	食の安全と安心を学ぶ港北の会	受講対象者は感染を恐れるあまり、集まって何かの課題をすすめる機運に乏しい。	○			メール	○	・在宅で打ち合わせをしたい		

16	ちくちくCafé	三密回避を意識しながら、メンバーの参加意思を優先して自由参加として日程を設け活動を再開しております。集まることで、メンバーの意欲やコミュニケーションの場を設けることができ、創作活動意欲を維持しております。							○	・その他(連絡等はITツールを利用してはいるが活動自体は集まらないと進めることができないため)
17	育児も家事も仕事もできる男になる、「男の3Gプロジェクト」	細々とでも継続することが大事であると考え、事業実施に際してオンライン化を行った。また、三密を回避できる企画や開催形態の模索を行った。	○	ZOOM LINE	NAS	Facebook ZOOM LINE				
18	ひっとプラン港北樽町地区推進委員会	①ベタンク大会、グラウンドゴルフ大会を、交流会として開催。 ・自治会・町内会で、開催可否、参加意向について意見が分かれたため、自治会・町内会単位でのチームではなく、一般チームとしてエントリーしてもらった。その結果、自治会・町内会メンバーの混成チームや、イベント団体のチームなどの参加があり、交流会らしくなった。 ・午前中のみで終了、表彰なしで参加賞のみとした。その結果、テントや食事の準備が不要となり、町内会・自治会役員の負担が減った。 ②防災訓練 ・一般の住民の方は参加なしとして、地域防災拠点の運営メンバのみで、避難所の開設、運営について訓練を行った。 ・各班に分かれて、最小限の訓練とした。 ・避難所開設時の感染症対策についても確認した。	○		30Days					
19	和輪話のまちにつば健康づくり部会	・ウォーキング、大新羽音頭等は三密回避できないと判断、野菜づくりは週2回早朝に実施、さつまいも掘の子供の収穫体験は検討中 ・6月収穫したジャガイモは学童保育、就労継続支援団体、親と子のつどい広場の3団体に各10kgづつ寄贈、喜ばれる								
20	太尾宮前地域まちづくり運営協議会	・定例会休止期間中は、連絡ツールとして利用しているメーリングリストで情報共有をした。 ・再開にあたっては会議会場の感染予防対策を確認・共有し、7月より再開をした。							○	・会員メンバー打ち合わせは対面で実施したいから
21	港北ふるさとテレビ局	・メンバーとのコミュニケーションについては、EメールやZOOMを使用したオンライン会議にて行った。 ・「港北昔ばなし紙芝居」の撮影については、立ち合い人数を最低限にしぼって撮影させていただいた。	○	ZOOM	DropBox	メール、LINE、Messenger				
22	スターリンクス	・公演実施先の要請・協力があれば、行政(横浜市)が掲示している感染症対策ガイドラインをもとに感染対策を徹底して講じ、一部の事業を変更・縮小し実施しています。	○		クラウド利用	スマホSNSアプリ利用	○	・在宅で打ち合わせをしたい		
23	ま～の・ま～の	メール配信登録者に運営状況を報告。	○			メール				
24	ウエルカム	メール配信登録者に運営状況を報告。	○			メール				
25	NPOサテライト								○	・会員メンバー打ち合わせは対面で実施したいから ・会員メンバーにITツールを活用するスキルがない

(3)事業のオンライン化

番号	団体名	取組概要	事業ツールとして活用した	ツール名	活用したい	どんなふうに活用したい	活用しない	活用しない理由	オンラインに対する意見
1	特定非営利活動法人バンブーマナビ塾	不登校、ひきこもりの児童、青少年、家族に対し学習支援・相談・居場所等の支援を通じ自立をめざす。	オンラインによる学習支援	ZOOM					・対面授業においては授業に関係ない雑談、身体の動きなどコミュニケーションが取りやすいなど利点がある。 ・オンラインでは、密や対人に不安を抱えている利用者が参加しやすい。
2	NPO法人フォーラム・アソシエ	【子育てLABO】子育て支援者のためのセミナーを開催。全5回。	子育てLABO	ZOOM					全員がオンラインの場合の方がやりやすいが、今後、対面とオンラインとの同時開催の必要が出てくるだろうし、その場合、音声や画像のノウハウがないと対応できないと考えている。外部から専門家派遣してもらえるよう、企画中。
3	NPO法人街カフェ大倉山ミエル	・こどものまちを作ろう ・こども哲学	こども哲学	ZOOM	動画の配信				・リアルには人数制限があるので、オンラインがあることで活動を広げることができる。
4	第36回大倉山秋の芸術祭	例年通り、11月初旬に5日間～7日間の期間を設け、演示と展示の発表を行う予定であった。					○	・活動はオンラインにふさわしくない ・事業対象者及び会員メンバーにITツールを活用するスキルがない ・その他(対面でこの行事であると思っているので、リアルタイムでの映像も可能性としては残るが、スキルの差がありすぎて委員会対応が出来ないと思われる	・リアルでその行事であると理解しています。可能性として、展示作品を映像にて流す、音楽配信をする等、出来る事はあると思いますが、「大倉山記念館」という建物のリアルさや響きなどが、感じられての「秋の芸術祭」です。また、各団体のスキルの違いも大きな問題になると思われます。ITスキルのある者だけのイベントであってはいけないとも思っています。
5	アイネット(Net)	◎プレママ&ピギママサロンを開催 * 月1回第3火曜日 ・場所:トレッサ横浜 フードコートの一画 ・手作り(基本メニュー:手縫いで育児グッズ作り)をしながら、妊娠中の女性と出産直後の母親が気軽に交流できる場を作る。また、毎月参加希望する人に多様なメニューを提供できるようにする。 ・地域の情報を提供する。特に子連れで行ける場所、子連れでもできることを詳しく紹介する。	プレママ&ピギママサロン	ZOOM					また、事業を実施する上でのリアル(対面)とオンラインの区分についてご意見をお願いします。プレママ&ピギママサロンは、コロナ禍でなくても外出しにくい「妊娠中の女性」、「出産後の母親」を対象としている事業であるため、オンラインでの開催は有効であることに気づいた。従って、この状況が回復されてもオンライン開催は続けていきたいと考えている。しかし、オンラインだとコミュニケーションに限界があり、参加者同士の交流が難しく、近所に住んでいても友達になるまでにはならないので、リアルな場も必要だと考えている。
6	産前産後ハンドレッドスマイル	マッチングサイト・プラットフォーム構築	オンライン両親教室	ZOOM					事業内容のこともあるからか、オンラインは気軽に有効な手段と思っています。オンラインでつながり、対面し(個別)という導線もできました。
7	小机城のあるまちを愛する会	地域の歴史や文化遺産を調査し、歴史散歩を行う	わが町の店	Youtube					・高齢者対象として対面で若者向けにはYoutube等で行う。
8	虹色畑クラブ	不登校や引きこもり、発達障害や精神疾患などで生きづらさを抱いている人達やその親御さんと地域の人たちが共同で港北区高田町の藤田農園にて、毎週木曜と月1回の日曜日、草取りや種まき、野菜の世話など、簡単にできる援農を行う。参加者には、収穫野菜がある時はその野菜を、お土産として持ち帰ってもらう。					○	・活動はオンラインにふさわしくない	
10	梅の丘公園ミュージックFES実行委員会	師岡町/梅の丘公園での野外コンサートの開催					○	・活動はオンラインにふさわしくない	LIVEの臨場感、会場に居る当事者感など、リアルが野外コンサートの本質
11	港北すみれの会“みんなでミュージカルを歌う会”	月2回のレッスンを続ける中で、会員を倍増(40人位まで)していく。特別チームを編成して、年内には施設へ派遣できるようにする。発表の場も1～2回計画する。					○		
12	Athlete Shared Value	日本を代表するアスリートと子供たちがふれ合い、様々なスポーツを体験することで『夢をみつめる課外授業』を行うこと				・今度活用したい(オンライン講座)			基本、実際に体験することが大事ですが、今後オンライン上でのイベント(ふれ合い)などを検討中
13	地球っ子・網島	親子で学ぼう!「鶴見川の自然と防災」 ○区内の市民団体と共同により、親子で楽しみながら鶴見川の治水と防災の学習会 ○冊子「鶴見川の自然と防災」					○	・活動はオンラインにふさわしくない	子どもたちを対象とどうした活動であるため、オンラインでの活動は不向きなので実施はしない。

14	「シニアのためのクラブ活動」大きな声で読んで歌って脳イキイキ講座	高齢化社会を迎えた今、60～90代のシニアの皆さんがこれまでの人生経験を地域社会に還元するための活動にあたり、重要な課題となる脳の老化を防止するための講座を開催。講座に参加することで、いつまでも元気で明るく楽しく「生涯現役」で、各々の能力を家庭や地域に還元できるシニアが増えることを支援する。					○	・活動はオンラインにふさわしくない ・事業対象者及び会員メンバーにITツールを活用するスキルがない	・シニア対象の講座の為、オンラインに抵抗感が強い参加者が多い。 ・対面での温かさが何より大切だと考えている。
15	食の安全と安心を学ぶ港北の会	子育て世代を中心として、幼児期からの食育の大切さを伝えながら食の安全について、講師を招き、講演や集いを開いて学習する。					○	・活用するスキルがない	少人数のリアルの集いを想定した対話を積み重ねて、話題や課題を共有できるようにして、得られた課題について講演を録画配信することを考えている。
16	ちくちくCafé	子育て支援施設などへの布おもちゃなどの制作および提供や、布おもちゃに興味を持っていただくためにイベントへの参加などを通して団体への参加希望者を募る活動や、子育て中の親御さんへの布おもちゃ作成紹介などを行う予定でした。					○	・活動はオンラインにふさわしくない	
17	育児も家事も仕事もできる男になる、「男の3Gプロジェクト」	「男の3Gプロジェクト」では、「家事も、育児も、地域社会での活躍も、できる男になろう」を合言葉に、健康で安心して住めるまちづくりの担い手を増やすことを目的に、男性の地域社会への参画を促す手段とした企画を実施する。まずは男性が不慣れた家事と育児に関する企画に優先的に取り組むこととして、その中でも人間として必須な「食べる」ことに着目し、「男の料理教室」を主に展開する。調理方法を学ぶことはもちろん、料理を皆で一緒に食べるなど参加者同士の交流を促し、本プロジェクトが目的とする地域社会の担い手を増やすために参加者同士の人間関係の醸成を実現することを意図して実施する。	料理教室	ZOOM					料理のスキルを学ぶという観点からはオンラインでの実施に問題ない。一方、地域社会における住民同士の交流という観点では、リアル(対面)な展開が必須であることが改めて認識できた。
18	ひとつプラン港北樽町地区推進委員会	・イベント情報のホームページ掲載 ・紙媒体での発行、配布(年2回)						コロナ感染の状況が悪化した場合に、打合せをZOOMで行う。	・ITツールに慣れているメンバーは、誰かと同席して参加する必要があること、自治会・町内会はみな近くに住んでいること、ふれあいも重要なので、基本は対面でしょうか。
19	和輪話のまちにつば健康づくり部会	・ウォーキング、大新羽音頭の保存会の設立、野菜づくりを通して子どもたちの収穫体験、心の健康づくり等を企画							
20	太尾宮前地域まちづくり運営協議会	まちづくり協議会のネットワークを生かし、さらなる地域力のアップに向けて、子どもが主役となる場づくり、イベントを開催する。					○		・オンライン事業の実施例(活用するための設備費や準備も含めて)を知ったうえで、団体内での共有・実施を検討できればと思います。
21	港北ふるさとテレビ局	(1)「観光」「自然」「歴史」「伝統芸能」「まちづくり」「港北昔ばなし紙芝居」等のジャンルの映像作品を制作して、「港北映像ライブラリ」に提供する (2)祭り、イベント、コンサートなどの撮影、編集、DVD制作	動画の配信(港北映像ライブラリと協力)	Homepage、Youtube					・今年は、「港北区民俗芸能のつどい」などのイベントも中止となり、去年の演奏をオンラインで配信した。また、図書館での上映会中止としてオンラインでの配信としたが、やはり対面のイベントにはかなわないと思う。コロナが収束したら、是非とも対面でのイベントを復活させたい。
22	スターリンクス	・スターリンクスファミリー劇場公演(7～10月)小学校他各地公共施設での映像劇公演 ・インターシンプシアター公演(1月)パレエ・フラダンス公演					○	一部をYouTubeによる生配信及び動画作品配信する	・舞台芸術公演(対面)、情報発信・映像作品(オンライン)
23	ま～のま～の	親のための家庭教育(子どもの成長発達に合った親の関わり方)を学ぶ会を10ヵ月開催。毎月テーマを決めてチラシを作成し、掲示・配布。希望者にはメールで案内を配信。毎回テーマに準じた講義、そして質疑応答、実践報告。					○	・活動はオンラインにふさわしくない	広報活動はオンラインの利用可能。
24	ウエルカム	毎月(除、8月)テーマを決め、子どもの成長発達に合った親のかかわり方の勉強会(含、質疑応答・実践報告)を開催。日程・テーマを記載したチラシを作成し、掲示・配布。					○	・活動はオンラインにふさわしくない	事業内容上、リアル(対面)が望ましい。広報活動はオンラインを利用。
25	NPOサンライト	文化の集いスマイルを立ち上げ、観光立国を目指す意味からも文化レベルのアップを図るための活動を実施する。					○	検討中	オンラインについては検討中。しかし、非常に難しい点も多く可能かどうかも含め考える余地あり。

(4) アイデア・意見・要望 【団体名】

- 感染予防対策の徹底はコロナだけでなく、インフルエンザや食習慣への対策にも有効であると考えられる。半面、消毒薬、うがい手洗い、フェイスシールドなど費用が掛かる。コロナ対策用の消耗品、例えば消毒薬等の支給があると助かります。【特定非営利活動法人バンブーマナビ塾】
- 今後も、コロナがどのような状況になるかわからないので、その中で最大の努力はしますが、計画や、企画、予算の変更には、柔軟に対応していただきたいです【NPO 法人街カフェ大倉山ミエル】
- 行政への要望とし、アイデアを持って活動をしている団体や個人を、地域の皆さんへアピールしてほしい。行政から積極的に前向きな姿勢を示してほしい。その上で指導をお願いしたい。
【第 36 回大倉山秋の芸術祭】
- 対象が「妊娠中の女性」「出産後の母親」であり、以前から対象となる人への告知に苦勞していた。今までは、チラシを作成して、自分たちでイベントの場で配ったり、乳児検診の日に区役所敷地の外の路上で配ったり、区の関連施設に置いていただいたりしていたが、コロナ禍では、それができない。オンライン開催での参加者と話をすると、コロナ禍で生まれたばかりの赤ちゃんを抱えながらの生活は、外に出ることができない、一日中大人と話せない、友達をつくることもできない、心配事があっても病院に行くことも難しい、など想像以上のストレスが溜まっていると感じる。
オンライン開催への参加者とは、LINE 公式アカウントでつながり、悩みや育児で聞きたいことがあった時の対応をしたり、地域の情報などを提供したりしており、「本当にこの場があってよかった」と声をいただいている。区役所の方で、母子手帳発行の時、出生届提出の時、乳児検診の時などに私どもの事業についての告知チラシを配っていただくことをお願いしたい。以前からお願いさせていただいているが、コロナ禍では今まで以上に「妊娠中の女性」「出産後の母親」が孤独な状況であること、またこの対象にはどんなにお金を払っても告知を行き届かせることが難しいことをご理解いただきたい。【アイネット (I●Net)】
- 集客及び子育て支援における IT を活用したプラットフォームが出来上がってきているため、活用していただけたらと思います。横浜市市民協働推進センターより取材を受け、ホームページで紹介されました。【産前産後ハンドレッドスマイル】
- 事業内容やイベントのチラシをポスティングする。
オンライン化を進める
対面は大切なので感染を正しく理解して進める。【小机城のあるまちを愛する会】
- 感染が収束するまで規模拡大はせずに、今までの会員さんとの繋がりを大切にしていきたいと考えています。【虹色畑クラブ】
- リアルでないなら、DVD や CD で十分であり、チケット販売を伴うプロならば食べていくためにはオンライン・コンサートなども検討しなければならないと思いますが、野外コンサート、野外 FES は、やはり LIVE はとても重要と考えます。PC 画面、テレビ画面からの印象・インパクトは心に残る、心に刻み込む度合いはどうしても低くなると思います。今回、中止の決定ですが、来年 3 月までの事業年度で可能性は低いかもしれませんが、年初にワクチンの許認可、アビガン等治療薬の開発がすすんでコロナを克服出来る期待を持って準備していきます。【梅の丘公園ミュージック F E S 実行委員会】

- 横浜市のとコロナ状況の情報、助成金情報（現在ご連絡いただいている）【地球っ子・綱島】
- 思いがけないコロナ禍にも感染予防対策をしっかりすれば何とかやれるのでは…との思いが徐々に強くなってきて、規模は縮小しましたが、何とか開講をすることが出来ました。不安でいっぱいだった私達の活動を後押しして下さったのは、区民活動支援センター、日吉地区センターの担当者の方々の親切で温かいアドバイスでした。心から感謝しております。
講座が始まったばかりで、意見や要望は思いつきません。
【「シニアのためのクラブ活動」大きな声で読んで歌って脳イキイキ講座】
- 区役所（区民活動センター）での活動となるため、コロナ感染者の方が出た場合は至急お知らせいただきたいです。メンバーが高齢のため、できるだけリスクを軽減した活動を心がけたいと思っています。
【ちくちく Café】
- 高齢の参加者が多く、ZOOM に馴染んでいない、ガラケーや古い機種のスマホのため ZOOM がインストールできず参加できない事例が確認できた。アフターコロナの社会においてはデジタル化やオンライン化が必須であり、コロナ以前のように IT 弱者が配慮される状況ではなくなり、むしろ排除されたり情報にアクセスできなくなる傾向になると想定される。行政による高齢者の IT 対応の支援が求められるのではないか。
事業としては、今後はオンラインとリアルを並行して実施することにより、さらに充実した企画や事業展開を行っていくことが出来ると考えている。
【育児も家事も仕事もできる男になる、「男の 3G プロジェクト」】
- イベント再開に向けて、工夫して少しずつ開催しているイベントを紹介すること。
デジタル掲示板を提案したが、自宅で見れるオンライン掲示板・回覧板を検討できませんか？
【ひっとプラン港北榑町地区推進委員会】
- 初めての事態であるので、今年度の各地区での活動や現状を収集した後、情報提供いただけたらと思います。【太尾宮前地域まちづくり運営協議会】
- とにかくコロナが終息するまでは、オンラインを活用し、その長所と短所を皆で理解する。その上で、コロナ終息後のイベントのやり方を討議すればいいと思います。【港北ふるさとテレビ局】
- 行政主導で“コロナ禍における地域活動の為の感染症対策の手引き”などを発行し、講習会などを開催してみてもどうでしょうか？【スターリンクス】
- 模索中です。【ま～の・ま～の】
- 模索中。【ウエルカム】
- 基本線を守りつつも、条件等は柔軟にし、守る点は実施者にできるだけ任せられるようにした方が良いと思っています。初めてのケースでもあり難しい点はいろいろあると解釈しています。【NPO サンライト】

[作成・問合せ先]

港北区地域振興課 地域力推進担当

[電話] 045-540-2247

[Eメール] ko-chikara@city.yokohama.jp